

保育社会福祉学科
1年

授 業 科 目	教育原理			担 当 者	河地 あすか		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

「教育とは何か」という基本的概念、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史・思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校（幼稚園・保育所等）の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。そして、これからの社会を生きていく子ども達に必要な教育、特に幼児教育はどうあるべきかを考えることができるようにする。

到達目標

- ・教育の基本的概念を理解する。
- ・教育の歴史に関する基本的な意識を身に付け、様々な子ども観、教育理念、思想について理解する。
- ・幼児教育の基本と幼児の理解について学び、幼児教育の現状と課題について理解する。

授業計画

【後期】

1. 教育とは何か
2. 教育の意義と目的
3. 教育の思想とその歴史①（諸外国）
4. " ②（日本）
5. 教育制度の成立と幼児教育の展開
6. 戦後における教育の再出発
7. 教育の法規と制度の基礎
8. 諸外国における教育・保育
9. 教育の方法①
10. " ②
11. 教育の内容
12. 教育の計画と評価（カリキュラムマネジメント）
13. 現代社会と生涯学習
14. 現代の保育・教育現場の現状と課題
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読む等予習をしておくこと
- ・授業毎にリアクションペーパーを記入し復習をすること

評価の方法・基準

- ・受講態度、出席状況（10%）、授業毎のリアクションペーパー（20%）、筆記試験（70%）

教科書

- ・『保育のための教育原理』（ミネルヴァ書房）
- ・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）・保育所保育指針解説（厚生労働省）
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、教育課程・全体の計画・指導計画について講義する。

授 業 科 目	社会福祉			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

保育士に求められる社会福祉の考え方、社会福祉法制度、相談援助技術などについて体系的に学習する。

到達目標

- ・日常の暮らしと、社会福祉とのつながりを理解することができる。
- ・社会福祉の視点と社会福祉の基礎理念を理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 社会福祉と私たちの生活との関わりについて
2. 社会保障について①（生活保護）
3. " ②（社会保険）
4. " ③（社会手当）
5. 社会福祉法と社会福祉六法について
6. 第1種社会福祉事業と第2種社会福祉事業
7. ノーマライゼーションについて
8. 日本の社会福祉施設とその問題点
9. 社会福祉専門職について
10. 社会福祉援助技術の種類と援助方法
11. 福祉サービス利用者の権利擁護と苦情解決
12. 少子高齢社会について
13. 保育所、認定こども園、幼稚園の共通点と相違点
14. 児童相談所の役割と機能について
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業後のまとめとして課題に沿ってレポートを提出する。各レポート800字程度とする。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

- ・『コメディカルのための社会福祉 第3版』（講談社）

備考

SWとして福祉現場で経験のある者が、社会福祉法制度や相談援助技術について講義する。

授業科目	教職概論			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数	30

授業の目的・内容

現在の社会状況において、子どもだけではなく、保育者（教師）を取り巻く環境も変化してきている。様々に変化しつつある子どもたちの健全な育成、そして保護者への対応、地域との連携など多くの職務内容に対応していかなければならない。「保育者（教師）とは何か」「教育とは何か」を、共に考えながら、保育者（教師）の役割・倫理等について学び、現在の社会状況に対応できるよう保育者（教師）としての資質を高めていくことを目的とする。

到達目標

- ・保育者（教師）の役割について理解をしている。
- ・保育者（教師）の職務内容について説明できる。
- ・現在の保育者（教師）に求められる資質能力を理解している。

授業計画

【前期】

1. 教育、保育とは何か
2. 保育者（教師）に求められる資質と専門性
3. 日本の教職の歴史①（戦前）
4. " ②（戦後）
5. 保育者（教師）の職務内容①
6. " ②
7. " ③
8. 現代社会の子どもたち【地域・家庭・学校（幼稚園・保育所）】①
9. " ②
10. 保育者（教師）の連携体制
11. カウンセリングマインド①
12. " ②
13. 保育者（教師）をめぐる制度
14. 保育者（教師）の専門性と研修
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読んでおくこと。
- ・授業毎にリアクションペーパーに記入し復習をすること。
- ・子ども、家庭、学校、保育者（教師）に関する情報に興味関心をもち、情報収集を心がけること。

評価の方法・基準

- ・受講態度・出席状況（10%）、リアクションペーパーの提出（30%）、筆記試験（60%）

教科書

- ・『改訂 教職入門』（萌文書林）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、教師の在り方について講義する。

授業科目	健康（指導法）			担当者	樋野本 順子		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

乳幼児の成長・発達について理解し、子どもの身体・こころの健康に必要な生活習慣や活動の中心となる遊びの意味について実践をしながら理解していく。また、子どもの指導・援助にあたる上で知っておくべき知識や技術を学び、現代的な課題を探究していく。

到達目標

- ・「幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「健康」に示される、ねらい・内容を踏まえ、乳幼児の「基本的生活習慣」・「運動遊び」・「安全教育」等の指導・援助及び環境構成の在り方を理解し、実践する。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション 心身の健康に関する領域「健康」①
2. " " ②
3. 乳幼児の健康と課題
4. 領域「健康」における教材研究
5. 安全教育と安全管理
6. 身近な物を使っての遊びと健康①
7. " " ②
8. " " ③、発表
9. リズム遊びと健康①
10. " " ②
11. " " ③、発表
12. 集団遊びと健康①
13. " " ②、発表
14. 応急処置法
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業時間内で学習した内容に関して復習するとともに、遊びの取り組みや指導・教材・応急処置等についてノートに整理しておく。

※活動の際には、指定された服装、身だしなみで臨むこと。

評価の方法・基準

- ・発表（50%）、レポート（30%）、授業への積極的取組（20%）

教科書

- ・『演習保育内容 健康』（萌文書林）
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- ・内閣府『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「健康」について講義する。

授 業 科 目	環 境 (指 導 法)			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容の理解と共に、他領域との関係についても理解を深める。

季節の行事や習慣について調べたり、動植物の飼育栽培方法を調べたり、地域マップ作りを体験することにより、生命の尊さを学ぶと共に、観察力を身に付けていく。

到達目標

- ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・領域「環境」を中心とした保育指導法と保育を構成する力を身に付ける。

授業計画

【後期】

1. 「環境」と保育
2. 子どもを取り巻く環境の変化
3. 領域「環境」のねらい及び内容について
4. 乳幼児の好奇心、探究心を育む保育
5. 思考力の芽生えを育む保育
6. 身近な生活の中でのかかわりと保育
7. 季節を考えた保育①
8. " ②
9. " ③
10. 物的環境を考えた保育①
11. " ②
12. " ③
13. 安全教育と保育環境
14. 保育の計画と方法
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読み、不明な点を明確にしておくこと。
- ・毎回課題を出すので次回までに仕上げ、整理しておくこと。
- ・授業は、指定した服装、身だしなみで受けること。

評価の方法・基準

- ・課題に対する取り組み (65%)、レポート (20%)、授業への積極的な取り組み (15%)

教科書

- ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- ・『保育と環境』（嵯峨野書院）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「環境」について講義する。

授業科目	言葉 (指導法)			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数	30

授業の目的・内容

「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に示された保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。また、0歳から就学前までの乳幼児の言葉の発達過程について理解し、それにふさわしい具体的な指導方法を認識し、言葉を育み豊かにしていくための保育者の役割について理解する。

到達目標

- ・「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」における領域「言葉」のねらい・内容を理解することができる。
- ・乳幼児の言語発達について理解することができる。
- ・乳幼児の言葉の獲得と保育者の関わりの重要性について理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 言葉の誕生
2. 言葉の役割
3. 言葉の発達①
4. 言葉の発達②
5. 言葉の獲得を支える環境①
6. " ②
7. " ③
8. 領域「言葉」の理解（3歳未満児）
9. 領域「言葉」の理解（3歳以上児）
10. 配慮が必要な幼児への指導
11. ICTを利用した領域「言葉」の保育実践
12. 児童文化財、言葉遊びと幼児の関わり
13. 保育実践（絵本等）①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業で行う内容について明示するので、テキストを事前に読んでおくこと。
- ・乳幼児の絵本等に日頃から興味関心をもち、積極的に手に取ってみてください。

評価の方法・基準

- ・（筆記試験（60%）、児童文化財を使用した保育実践（30%）、受講態度・出席状況（10%）

教科書

- ・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）
- ・『保育所保育指針解説』（厚生労働省）
- ・『保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助』（ミネルヴァ書房）
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「言葉」について講義する。

授業科目	造形表現 (指導法)			担当者	樋野本 順子		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育1年	時間数	60

授業の目的・内容

- ・多様な幼児の造形表現活動に必要な基礎的技術・知識の習得。
- ・生活を豊かにしたり、感動を伝え合ったりできる表現活動を体験する。
- ・幼児の心を動かす造形を自分達自身で作り出していく。

到達目標

- ・造形活動の基礎となる平面・立体の作品作り・身近な素材を使った制作活動を通して、多様な幼児の造形表現活動に必要な材料研究を行い、幼児の造形活動における適切な指導や援助方法を理解する。
- ・作品を作って活動したり、鑑賞したりすることを通して様々な表現活動の意味に気付き工夫して遊んだり、演出したりする力を養う。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション 造形表現についての概要
2. 幼児造形表現の理解・かく・つくるの発達段階
3. 絵画技法の色々①
4. " ②
5. 表現技法を使って①
6. " ②
7. 人形劇①
8. " ②
9. " ③
10. 中間発表
11. 人形劇④
12. " ⑤
13. " ⑥
14. " ⑦
15. 発表

【後期】

16. 造形活動の展開 指導案①
17. " ②
18. " ③
19. " ④
20. 生活を彩る造形①
21. " ②
22. " ③
23. " ④
24. " ⑤
25. " ⑥
26. " ⑦
27. " ⑧
28. 作品紹介 発表①
29. " ②
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・使用する道具・材料の準備をする。(※指定している持参材料・道具は、指定されたものを持参する。)
- ・授業で製作した作品を大切にし、製作方法・感想・作品の写真をきちんと整理する。
- ・授業は、指定した服装で受けること。

評価の方法・基準

- ・課題作品提出、レポート (70%)、材料、道具、授業準備、積極的活動 (30%)

教科書

- ・『幼児・初等教育 造形コース』(日本色研)
- ・『造形表現 (指導法)』(近畿大学九州短期大学)
- ・プリント

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、様々な教材の使い方・表現方法・技術を指導する。

授業科目	音楽表現 (指導法)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」を通して、子どもの姿、保育者の指導や指導方法など、幼児教育の音楽的な表現について学ぶ。
- ・乳児・幼児の年齢に合った手遊びやリズム遊び、音楽遊びを実践する。

到達目標

感性を豊かにし、様々な表現を楽しみ、そして考える力を身に付け、保育現場の音楽的表現活動において、指導者としての基本的知識・実践的な技術を身に付けることを目標とする。

- ・年齢に合った手遊びやリズム遊びを理解し、表現できる。
- ・保育者として、状況に合わせて様々な音楽遊びを表現し指導できる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション(領域「表現」と音楽表現について、手遊び・音楽遊び・リズム遊びについて)
2. 手遊び・指遊び①、身体表現①、わらべうた①、発声について①
3. " ②、 " ②、 " ②、 " ②
4. " ③、 " ③、 " ③、リトミックについて①、リズム遊び①
5. " ④、 " ④、 " ④、 " ②、 " ②
6. " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 " ③
7. " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、拍子(2・3・4拍子)の捉え方
8. " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、絵かきうた・数字のうた(グループで考え発表)
9. " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、ごっこ遊び
10. 音楽遊び①、復習、グループ発表
11. " ②、手遊び・指遊び⑨、身体表現⑨、わらべうた⑨、楽器遊び①
12. " ③、 " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 " ②
13. まとめ①、準備
14. " ②、手遊び個人発表
15. " ③、レポート

事前・事後学習の内容

- ・年齢や状況に合わせた手遊びを考える。
- ・歌唱やピアノの練習で音程を、体を動かしリズムを意識し過ごすこと。

評価の方法・基準

- ・発表<個人(40%)・グループ30%>、出席状況および授業態度(15%)、課題(15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』(チャイルド社)
- ・『楽しい音楽表現』(圭文社)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、その経験を活かして音楽表現方法・技術を指導する。

授業科目	劇遊び(指導法)			担当者	樋野本 順子		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育1年	時間数	30

授業の目的・内容

劇遊びを行う上で必要な、身体活動や想像力を豊かにする活動を通して、自己発見と他者理解力を高める。模擬保育として、クラスメイトの前で身体表現活動を発表し、技術を高める。オペレッタや劇づくりを行い実践する。

到達目標

- ・子どもの身体表現の基本的知識を理解し、子どものもつ感性や表現力を引き出すための指導方法、援助方法を体得する。
- ・感性を磨きイメージを豊かにし、保育者に必要な発想力・表現力を習得する。
- ・クラスメイトと共に協力して一つのを仕上げることを通して、協働、共生の意味を理解する。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 劇内容を考える①
3. " ②
4. 演出方法①
5. " ②
6. " ②
7. 衣装づくり①
8. " ②、
9. パンフレット作り①
10. " ②
11. 予行演習、振り返り
12. 劇(練習)①
13. 劇(発表)①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・配役の表現方法について調べ、練習する。
 - ・クラスメイトと協力して動きや表現活動の練習を行う。
 - ・活動の反省、感想、指導法をノートに整理しておく。
- ※実習着、シューズで授業に参加すること。

評価の方法・基準

- ・出席と授業への取り組み(70%)、レポート(30%)

教科書

『幼稚園教諭・保育士をめざす 楽しい音楽表現』(圭文社)

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、子どもの感性や表現力を引き出す指導・援助方法を指導する。

授業科目	幼児と音楽表現			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	保育1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

保育者としてピアノを使い弾き歌いをする事は、子ども達にとって生活や季節を感じる事、体を使い表現することなどの雰囲気演出するにおいて大事な役割である。

- ・基礎的な楽典を理解し、季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習する。
- ・ハ長調のほかにもト・ヘ・二長調の音階やコードも練習し身に付ける。
- ・毎週レッスンと小テストを行い、個々に合わせた練習のやり方で演奏技術の向上を目的とする。

到達目標

現場で必要なピアノ技術やコードを使って奏する力、弾き歌い技術の習得、向上を目標とする。

- ・楽譜を読み、音程や音階を理解し歌唱やピアノで表現することができる。
- ・ハ・ト・ヘ・二長調の音階やコードを理解することで弾き歌い曲のレパートリーを増やし、歌い示すことができる。

授業計画

【後期】

1. レッスン (バイエル・弾き歌い曲) ①、小テスト①、コード・音階(Cdur)①
2. " " ②、 " ②、 " " ②
3. " " ③、 " ③、 " " ③
4. " " ④、 " ④、新しいコード Gdur について
5. " " ⑤、 " ⑤、コード・音階(Gdur)①
6. " " ⑥、 " ⑥、 " " ②
7. " " ⑦、 " ⑦、 " " ③
8. " " ⑧、 " ⑧、新しいコード Fdur について
9. " " ⑨、 " ⑨、コード・音階(Fdur)
10. " " ⑩、 " ⑩、新しいコード Ddur について
11. " " ⑪、 " ⑪、コード・音階(Ddur)
12. " " ⑫、復習①、コード・音階(Ddur)
13. " " ⑬、 " ②
14. " " ⑭、 " ③、発表

15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)・『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社)・『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)・プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、その経験を活かして音楽表現方法・技術を指導する。

授 業 科 目	教育実習事前事後指導 I			担 当 者	河地 あすか		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

教育実習の事前事後指導を行う授業である。教育実習に参加する学生は必ず受講をしなければならない。

事前指導では、教育実習が円滑に実践できるように、教育実習の意義や概要、実習の心構えや準備、実習に臨む基本姿勢、日誌・指導案の書き方等を学ぶ。また、ねらいや目標をもって、実習に取り組むことができるようにする。事後指導では、実習の学習内容を振り返り自己課題の発見に努める。

到達目標

- ・実習の意義と目的を理解している。
- ・実習生としてふさわしい姿勢や態度を身に付けることができる。
- ・実習日誌、指導案の書き方が理解できる。

授業計画

【後期】

1. 教育実習の概要
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習の手続き
4. 幼稚園の一日の流れと幼稚園教諭の職務内容
5. 実習生としての心構え①
6. " ②
7. 実習日誌の書き方①（幼稚園教諭の一日を追って）
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. 部分実習の内容と方法①
12. " ②
13. 指導案の書き方
14. 実習報告会
15. 1年後期のまとめと課題

事前・事後学習の内容

- ・実習で必要な姿勢や態度は日常生活から取り組むことで身に付きます。授業で学んだことを実践してみましょう。
- ・ボランティア活動に積極的に参加し子どもや保護者と関わってみましょう。
- ・日頃から親子に関心をもって、保護者や子どもの様子を観察してみましょう。

評価の方法・基準

- ・出席状況（40%）、受講態度（30%）、レポート提出（30%）

教科書

- ・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）、『保育の基本用語』（わかば社）
- ※これらの教科書は3年間使用する

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、実習生としての心構え、マナー、実習記録の方法等について指導する。

授業科目	音楽(基礎)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数	30

授業の目的・内容

保育者としてピアノを使い弾き歌いをする事は、子ども達にとって生活や季節を感じる事、体を使い表現するなどの雰囲気演出することにおいて大事な役割である。

- ・楽典で楽譜の読み方(調号拍子・音符やリズム・強弱など)やピアノ奏法の基礎を学び、季節に合わせた弾き歌い曲を練習する(ハ長調)。
- ・毎週レッスンと小テストを行い、個々に合わせた練習のやり方で演奏技術の向上を目的とする。

到達目標

現場に必要な音楽の知識を身に付け、楽典やピアノや弾き歌いの実技能力の基礎を習得することを目標とする。

- ・楽譜の読み方が理解できる。
- ・ピアノ奏法の基礎を習得する。
- ・ハ長調のコードを覚え、簡単な伴奏を付けられる。
- ・ハ長調の弾き歌いができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション(自己紹介、授業説明、ピアノ室の使用法・レッスンについて、課題発表)
2. 楽典①、ピアノ奏法基礎①、レッスン①、季節・生活の歌①、小テスト①、Cdur(コード・音階)①、歌唱基礎①
3. // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②
4. // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③
5. // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④
6. // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤
7. // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥
8. // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 バイエル①
9. // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 //
10. // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 //
11. // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 //
12. 復習①、まとめ①、レッスン⑪
13. 復習②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 筆記試験
14. 復習③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 //
15. 復習④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (80%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (20%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、即現場に役立つ音楽の基礎を指導する。

授 業 科 目	歌 唱			担 当 者	松 本 愛		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

- ・ 幼児期に歌われるわらべうた、唱歌、童謡をはじめ、心にのこる日本の歌など、様々な「うた」を音楽知識と共に歌唱学習する。
- ・ 呼吸法、発声法の歌唱基礎を学び、幼児の音楽活動に対して適切な指導や援助ができるよう、内面的感性、歌唱力、表現力の向上を目指す。

到達目標

- ・ さまざまな季節の歌・生活の歌を理解し、歌唱で表現できる。
- ・ 正確な音程を理解し、ピアノ伴奏に合わせて歌い示すことができる。
- ・ 保育者として、歌唱の指導・援助ができる。

授業計画

【前期】

1. 発声・呼吸法①、季節・生活の歌①、ソルフェージュ①、わらべうた・手遊びうた・合唱・劇中歌・他
2. " ②、 " ②、 " ②、 "
3. " ③、 " ③、 " ③、 "
4. " ④、 " ④、 " ④、 "
5. " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 "
6. " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、 "
7. " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、 "
8. " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、 "
9. " ⑨、 " ⑨、 " ⑨、 "
10. " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 "
11. " ⑪、 " ⑪、 " ⑪、 "
12. " ⑫、 " ⑫、 " ⑫、 "
13. 復習①
14. " ②
15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・ 発声法や日本語の発音などを常に意識しておく。
- ・ 授業で習った歌を、自主練習すること。

評価の方法・基準

- ・ 実技試験（課題曲〈ソロ・ペア〉）（85%）、出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢（15%）

教科書

- ・ 『声楽<声楽教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）
- ・ 『音楽<ピアノ教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）
- ・ 『保育実用書シリーズ こどものうた 200』（チャイルド社）
- ・ 『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』（チャイルド社）
- ・ 『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）
- ・ プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、発声方法や幼稚園・保育所で歌われている歌等指導する。

授 業 科 目	指 導 案 実 践 演 習 I			担 当 者	河地 あすか		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

指導案を作成し、模擬保育実践に特化する授業である。乳幼児の発達の特徴の理解・資料の収集・活動の選択・指導案の立案・教材準備・指導案の実践・振り返り・反省と評価の過程を通して、乳幼児の前に立つ保育者として必要な姿勢や態度、実践力等を身に付ける。

到達目標

- ・乳幼児の発達や興味関心、季節等に応じた指導案の作成ができる。
- ・指導案を実践するために、実践日までに教材や資料を準備できる。
- ・指導案を実践（模擬保育）し、客観的に振り返り、反省・評価ができる。

授業計画

【後期】

1. 指導案の書き方①
2. " ②
3. グループ演習（指導案作成・教材準備）①
4. " ②
5. 模擬保育（グループ発表）①
6. " ②
7. 指導案作成、教材準備
8. 模擬保育①、カンファレンス①
9. " ②、 " ②
10. " ③、 " ③
11. " ④、 " ④
12. " ⑤、 " ⑤
13. " ⑥、 " ⑥
14. " ⑦、 " ⑦
15. " ⑧、 " ⑧

事前・事後学習の内容

- ・観察実習時の学びの内容や子どもの様子について書き出しておくこと。
- ・他の授業を関連させ乳幼児の発達の特徴について理解を深めておくこと。
- ・模擬保育を実践できるよう、教材や資料を準備しておくこと。

評価の方法・基準

- ・模擬保育日一週間前までに作成した指導案と教材の提出（40%）
- ・受講態度および出席状況（20%）、模擬保育実践（20%）、模擬保育後のレポート提出（20%）

教科書

- ・なし

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、指導計画の立案・実践方法について指導する。

保育社会福祉学科
2年

授業科目	子どもの保健			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	前期	学科・学年	保育2年	時 間 数	30

授業の目的・内容

小児の概念を小児期の心身の成長・発達および小児を取り巻く社会の動きから把握する。
各年齢の特徴、疾病の特徴について学び、疾病予防のための生活・環境条件について理解する。
小児期に起こりやすい事故について学び、その予防についての知識を習得する。

到達目標

- ・統計からみた小児保健水準、保健対策について述べるができる。
- ・小児期の代表的な疾患について、その特徴が説明できる。
- ・小児期に起こりやすい代表的な感染症について、その特徴と予防法、対策が説明できる。
- ・小児期に起こりやすい事故について、その予防策が説明できる。

授業計画

【前期】

1. 統計から見た小児保健水準、母子保健、小児保健行政について
2. 子どもの発育の原則
3. 子どもの身体発育の特徴
4. 子どもの生理機能の発達と保健 各器官の特徴①
5. " " ②
6. 子どもの諸機能の発達と保健①
7. " " ②
8. 小児疾病① 先天異常、肢体不自由、重症心身障害
9. " ② 循環器疾患、呼吸器疾患
10. " ③ 消化器疾患、腎、血液疾患
11. 小児の感染症①
12. " ②
13. 子どもの発疹、保育所での感染症の取り扱い、予防接種
14. 子どもの事故とその予防策
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・レポート「月齢ごとに起こりやすい子どもの事故とその予防策」

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (80%)、レポート (20%)

教科書

- ・『よくわかる子どもの保健 第3版』（ミネルヴァ書房）

備考

医療機関で看護師として従事した者が、乳幼児の保健、健康に関する知識・技術について指導する

授業科目	音楽表現技術			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数	30

授業の目的・内容

保育・幼児教育現場で必要とされる弾き歌い実践力、即興能力(子どもの状況に合わせて奏する対応力)、表現力の向上を目的とする。

- ・季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習する。 ・ソナチネ(1曲以上)を丁寧に譜読みする。
- ・毎週レッスンと小テストを行い、個々に合わせた練習のやり方で演奏技術の向上を目的とする。

到達目標

保育者として、現場に必要なピアノ技術やコードを使って奏する応用力、弾き歌い技術の習得・向上を目標とする。

- ・楽譜を読み、音程や音階を理解し歌唱やピアノで表現することができる。
- ・コードで自由に伴奏を付け歌い示すことができる。 ・ソナチネを丁寧に譜読みし演奏することができる。

授業計画

【前期】

1. レッスン (バイエル・ソナチネ・弾き歌い曲) ①、小テスト①、コード①、歌唱①
2. " " ②、 " ②、 " ②、 " ②
3. " " ③、 " ③、 " ③、 " ③
4. " " ④、 " ④、 " ④、 " ④
5. " " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 " ⑤
6. " " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、 " ⑥
7. " " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、 " ⑦
8. " " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、 " ⑧
9. " " ⑨、 " ⑨、 " ⑨、 " ⑨
10. " " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 " ⑩
11. " " ⑪、 " ⑪
12. " " ⑫、復習①
13. " " ⑬、 " ②
14. " " ⑭、 " ③、発表
15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部) ・『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた200』(チャイルド社) ・『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜) ・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、その経験を活かして音楽表現方法・技術を指導する。

授業科目	音楽(応用)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	保育2年	時 間 数	30

授業の目的・内容

保育・幼児教育現場で必要とされる弾き歌い実践力、即興能力(子どもの状況に合わせて奏する対応力)、表現力の完成を目指す。

- ・季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習する。
- ・ソナチネ(1曲以上)を丁寧に譜読みし弾き込む。
- ・毎週レッスンと小テストを行い、個々に合わせた練習のやり方で演奏技術の向上を目的とする。

到達目標

保育者として、現場に必要なピアノ技術やコードを使って奏する応用力、弾き歌い技術の習得・完成を目標とする。

- ・音程や音階を理解し、状況に合わせて歌唱やピアノで子どもたちを導くことができる。
- ・自由に伴奏を付け歌い示すことができる。
- ・ソナチネを丁寧に譜読みし表現力豊かに演奏することができる。

授業計画

【後期】

1. レッスン (バイエル・ソナチネ・弾き歌い曲) ①、小テスト①、歌唱①、コード①
2. " ②、 " ②、 " ②、 " ②
3. " ③、 " ③、 " ③、 " ③
4. " ④、 " ④、 " ④、 " ④
5. " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 " ⑤
6. " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、 " ⑥
7. " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、 " ⑦
8. " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、 " ⑧
9. " ⑨、 " ⑨、 " ⑨、 " ⑨
10. " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 " ⑩
11. " ⑪、復習①
12. " ⑫、 " ⑫
13. " ⑬、 " ⑬
14. " ⑭、 " ⑭、発表

15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)、『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、即現場に役立つ音楽の実践を指導する。

授 業 科 目	指 導 案 実 践 演 習 II			担 当 者	河地 あすか		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

指導案実践演習 I での学びを基礎に、グループでの模擬保育に取り組み、実践力の向上に努める。模擬保育後の学び・気づき・反省等を参加学生全員がワークシートに記入し、それを分析・考察する。その結果を基に、新たな指導案を作成し報告することを通して、環境構成や乳幼児の活動、保育者の援助、留意点等の細かな部分まで配慮しながら保育を実践する力を身に付けていく。また、保育を展開する上で、人間関係やチームワークの大切さを体得する。

到達目標

- ・グループメンバーで協力しながら模擬保育の事前準備ができる。
- ・保育者としてふさわしい姿勢や態度で、模擬保育ができる。
- ・反省、評価を基に、指導案を改善し、実践できる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 指導案実践演習 I の振り返り
3. 模擬保育①
4. " ②
5. " ③
6. " ④
7. " ⑤
8. " ⑥
9. 模擬保育ワークシート分析・考察
10. 模擬保育分析・考察・指導案の報告①
11. " ②
12. " ③
13. " ④
14. " ⑤
15. " ⑥

事前・事後学習の内容

- ・グループメンバーと話し合う時間を作り、事前に指導案を作成し教材準備をすること。
- ・毎模擬保育後に配布するワークシートを記入し提出する。
- ・教育実習での学びや子どもの様子を書き出し、参考にすること。

評価の方法・基準

- ・模擬保育 (20%)、グループ演習に取り組む姿勢と協力的態度 (20%)、報告姿勢と報告内容 (20%)
- ・提出物 (指導案) と教材準備 (20%)、出席状況 (20%)

教科書

- ・使用しない

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、指導計画の立案・実践方法について模擬保育を通して指導する。

保育社会福祉学科
3年

授業科目	子どもの保健Ⅱ			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育3年	時間数	45

授業の目的・内容

子どものあらゆる活動の基盤は「健康」である。保育者は子どもの発達を促す働きかけを絶えず行っているが、その中には当然「健康を守り育てること」が含まれている。保育現場では、子どもの健康状態を観察や測定によって正しく把握し、状態の急変(けがや病気)に適切に対処することが求められている。演習ではそのような知識・技術を可能な限り身につけること、また、知識・技術の必要性を認識し子どもの健康に関心を持つことをねらいとする。

到達目標

- ・子どものバイタルサインの測定方法、正常・異常が述べられる。
- ・子どもの擁護技術(排泄、おむつ交換、衣服の着脱方法、沐浴、調乳、口腔ケア、離乳食の与え方)ができる。
- ・子どもの応急処置法(罨法、包帯法含む)ができる。
- ・月齢に合わせた保健だよりが作成できる。
- ・月齢に合わせた保健指導ができる。

授業計画

【前期】

1. 小児の健康状態の観察、バイタルサインの測定
2. 小児の身体発育状態の観察、身体発育の測定方法と評価
3. 小児の擁護技術① 排泄(おむつの当て方)、衣服の着脱方法
4. " ② 沐浴、清拭
5. " ③ 調乳、口腔ケア
6. " ④ 離乳食の与え方、食物アレルギー、エピペンについて
7. 与薬、応急処置法
8. 罨法(冷罨法、温罨法)、止血法(包帯法)
9. 保健計画：「保健だより」の作成①
10. " ②
11. " ③
12. 健康教育：保健指導 媒体作製①
13. " ②
14. " ③
15. 保健指導 発表・評価、まとめ

事前・事後学習の内容

- ・次回授業までに授業内容の予習を行う。

評価の方法・基準

- ・実習態度 (40%)、保健指導 発表内容 (30%) 作製物 (30%)

教科書

- ・なし

備考

医療機関で看護師として従事した者が、乳幼児の健康に関する知識・技術について指導する。

授 業 科 目	音 楽 (実 践)			担 当 者	松 本 愛		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数	6 0

授業の目的・内容

保育・教育現場での適切な指導法、演奏技術の向上とレパートリーを増やすことを目的とする。

打楽器の基礎奏法やリズム奏や合奏を実践することでリズム感を養うと共に音の組み合わせによる共鳴感を養う。

ピアノの練習曲(バイエル・ソナチネなど)・子どもの歌などの弾き歌い曲を課題とし、毎週レッスンと小テストを行う。

到達目標

保育者としてピアノや歌唱の技術をさらに磨き、季節を感じ生活に溶け込む音楽・表現などをレパートリーの中から自由に活かすことで、弾き歌いの実践力・表現力・即興能力といった、保育・教育現場での適切な指導法を習得することを目標とする。

授業計画

【前期】

1. 合奏①(基礎)、小テスト①
2. # ②(練習①)
3. # ③(# ②)
4. # ③(発表)、レッスン①(ソナチネ(自由曲)決め)
5. 小テスト②、レッスン②(ソナチネ(自由曲)・弾き歌い)、歌唱①
6. # ③、# ③ # 、# ②
7. # ④、# ④ # 、# ③
8. # ⑤、# ⑤ # 、# ④
9. # ⑥、# ⑥ # 、# ⑤
10. # ⑦、# ⑦ # 、# ⑥
11. # ⑧、# ⑧ # 、# ⑦
12. # ⑨、# ⑨ # 、# ⑧
13. # ⑩、# ⑩ # 、# ⑨
14. 復習
15. まとめ、実技試験

【後期】

16. 小テスト⑩、レッスン⑩(ソナチネ(自由曲)・弾き歌い)
17. # ⑫、# ⑫ #
18. # ⑬、# ⑬ #
19. # ⑭、# ⑭ #
20. # ⑮、# ⑮ #
21. # ⑯、# ⑯ #
22. # ⑰、# ⑰ #
23. # ⑱、# ⑱ #
24. # ⑲、# ⑲ #
25. # ⑳、# ⑳ #
26. # ㉑、# ㉑ #
27. 復習①、レッスン⑫(ソナチネ(自由曲)・弾き歌い)
28. # ㉒、# ㉒ #
29. # ㉓、# ㉓ # 、発表
30. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・自主練習
- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験(課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>)(85%)、
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト(15%)

教科書

- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社) ・『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜) ・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)
- ・『楽しい音楽表現』(圭文社)、プリント配布 ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、弾き歌いの実践力・即興能力等を習得できるよう指導する。

授 業 科 目	指 導 案 実 践 演 習 Ⅲ			担 当 者	河 地 あ す か		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数	3 0

授業の目的・内容

指導案実践演習Ⅰ・Ⅱでの学びを基礎に、模擬保育に取り組み、実践力の獲得と向上に努める。そのために、本演習Ⅲでは、教材研究や様々な保育方法を十分に検討し指導計画を立案すること、保育者として模擬保育を実施すること、振り返りである分析・考察を丁寧に行うことの過程を重視する。その過程を「模擬保育研究」としてワークシートに記入し報告することを通して実践力だけではなく、保育者として必要とされる考察力や実践したことを相手に論理的にわかりやすく説明できるスキルを習得する。

到達目標

- ・模擬保育の事前準備が丁寧且つ十分にできる。
- ・保育者として模擬保育ができる。
- ・模擬保育の研究結果を報告できる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 模擬保育①
3. 模擬保育②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
7. 模擬保育研究報告①
8. " ②
9. 模擬保育⑥
10. " ⑦
11. " ⑧
12. " ⑨
13. " ⑩
14. 模擬保育研究報告③
15. " ④

事前・事後学習の内容

- ・教材研究を十分に実施し、保育方法を検討しておくこと。
- ・指定されたワークシートに記入し提出すること。
- ・これまでの実習経験を活かし、参考にすること。

評価の方法・基準

- ・模擬保育 (20%)、報告姿勢と報告内容 (40%)、ワークシートの提出 (40%)、出席状況 (20%)

教科書

- ・使用しない

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を活かし、指導計画の立案・実践方法について模擬保育を通して指導する。